

（ほ）うこん

題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録
2022年9月6日発行（毎月1回6日発行）
昭和43年3月8日第三種郵便物許可

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会

TEL (03) 5379-5521 / FAX (03) 5379-5510
ホームページ <https://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・川喜田尚

第60回ギャラクシー賞より ウェブCMが審査対象に

―7月理事会報告―

2022年7月22日、7月理事会をZoomミーティングにて開催した。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 鈴木委員長

・出版編集委員を、新たに服部洋之さんに委任した。

・7月19日にZoomで委員会を開催した。新体制初めての委員会のため、自己紹介と企画案のプレゼンなどを行った。

・「GALAC」10月号特集は「テレビのサウンドパワー」。テレビの「音声（音響）」にスポットを当て、映像メディアによる「音」の効果や音響技術の最前線、いま求められる「音効」の仕事など、多彩に取り上げる。

・緊急寄稿として、7月8日に起きた安倍晋三元首相銃撃事件とい

う前代未聞の事態に際して放送メディアは何を、どう伝えたかについて、ジャーナリストの高瀬毅さんに検証をお願いした。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉古川委員長

・6月28日にリアルにて月評会を開催した。月間賞には、テレメンタリー2022「おいだば、時給125円」（秋田朝日放送）、土曜ドラマ「17才の帝国」（NHK）、NHKスペシャル「追跡・謎の中国船―海底覇権をめぐる攻防―」（NHK）、関ジャム 完全燃SHOW「山下達郎特集」（テレビ朝日）の4本を選出した。

〈ラジオ部門〉五井前委員長、桜井委員長

・6月20日にリアルにて定例会を開催した。「星と宇宙」をテーマ

に「スターライトシンフォニー」（栃木放送）、「しずおか星空案内室」（KRMIX）、「東京プラネタリーカフェ」（TOKYO FM）、「Mach Discovery」（FMヨコハマ）を聴取し議論を交わした。

・7月19日に新体制初めての定例会をリアルにて開催した。「海を感じる番組」をテーマに、「iHeart Hawaii」（Inter FM）、「EPO風と海と空と」（FM沖縄）、「OCEAN TRIBE」（Bay FM）を聴取し議論を交わした。

〈CM部門〉家田委員長

・6月21日にリアルにて定例会を開催し、35作品のCMを視聴した。アサヒビール クリアアサヒ「クリアと、晴れよう。篇」、ヤクルト ヤクルト400W「人生100年時代篇」、東海テレビ 公共キヤンペーン・スポット「生理を、ひめぐとにしない。」などのCMが注目を浴びた。

・7月21日にリアルにて定例会を開催し、34作品のCMを視聴した。ACジャパン「寛容ラップ」、コ

ーセー 雪肌精「羽生さん篇」、日本マクドナルド マックフルーリー「夏の作戦会議。」などのCMが注目を浴びた。

・ギャラクシー賞CM部門にウェブCMを審査対象とすることを全員が賛成し、60回上期より募集を開始する。テレビ・ラジオ・ウェブCMのノンセクション選考も決めた。

〈報道活動部門〉 茅原委員長

・7月11日に新体制初めての情報交換会をZoomで開催した。報道活動に関する情報について各委員が持ち寄った資料を共有。安倍元首相の銃撃事件、参院選報道道についての所感を交わした。

◇企画事業委員会 水島委員長

・報告は特になし。

◇広報委員会 滝野委員長

・7月8日にZoomで委員会を開催した。
・7月7日にHPオリジナルコンテンツ
〈座談会〉2022年春ドラマまとめ編を掲載した。

・ギャラクシー賞贈賞式動画に関する報告は下記の通り。

7月7日 YouTube「第59回ギャラクシー賞贈賞式」動画掲載終了。再生回数8万回以上。「草薙剛さんインタビュー動画」公開(掲載は8月8日まで)。

8日 Gメンバーサイトに「第59回マイ

ベストTV賞グランプリ『美しい彼』インタビュー動画」を先行掲載。

11日 YouTubeに「美しい彼」インタビュー動画」を一般公開。

13日 YouTubeに「ギャラクシー賞受賞者の声」(各部門大賞、特別賞、フロンティア賞、DJ賞、志賀賞)公開。

・7月1日に新Gメンバーサイト開発担当者と、サイトのセキュリティ強化について打ち合わせをした。

・7月4日にGメンバー不正問題調査検証プロジェクトを開催し、不正者洗い出し方針などを検討した。

2. その他

①正会員入会の件

服部洋之さん、松田健次さん

【出席】音好宏、川喜田尚、藤田真文、出田幸彦、桜井聖子、鈴木健司、古川柳子、家田利一、茅原良平、水島宏明、滝野俊一、市村元、奥律哉、風間恵美子、五井千鶴子、小林毅、長井展光、仲宇佐ゆり、桧山珠美、山田健太、中島好登

今後の理事会

8月休会、9月27日、10月27日

会議記録

〔7月〕

8日

広報委員会

11日

(選奨) 報道活動情報交換会

19日

(選奨) ラジオ定例部会
出版編集委員会

21日

(選奨) CM定例部会
理事会

22日

(選奨) テレビ月評会

報 告

「放送批評」編集長、周年担当、専務理事などを歴任し、会の発展に寄与された嶋田親一さんが、7月9日、逝去されました。90歳でした。謹んでお悔やみを申し上げます。

会報「ほうこん」では、嶋田親一さんの追悼特集を行います。正会員の皆様から嶋田親一さんの思い出など追悼のメッセージ(400字程度)をいただきたく、お寄せいただける方は、8月22日までに事務局にお送りいただくようお願いいたします。(kondankai@houkon.jp)

ラジオ探究は続く

石井育子

ラジオ局勤務35年。現在は大学非常勤講師のほか、フリーでラジオドラマ制作などに関わっています。

10代はラジオっ子。せっせとハガキを送り、番組をカセット録音し、しゃべり手の言葉と音楽に「喜怒哀楽」しながら過ごしました。入社後は、報道部門に所属していた期間は、政治も熱く、毎年変わる総理大臣、政権交代劇、そして東日本震災という未曾有の天災など、今に続く社会的変化の激流の起点にいた気がします。

ラジオの役割が喧伝されるなか、ふと思いました。「本当のところ、ラジオにとって大切なことは一体何だろう?」。学び直しのため大学院に飛び込みその後復職。以来フリーになった現在に至るまでそれを考え続けています。実践と研究の両輪で探求したいと考えていたタイミングでお声をかけていただきました。音と声だけのメディア表現の普遍性や進取性についてアタマよく考えつつ、活動に寄与できればと思います。

新入正会員自己紹介

広告に未来はあるのか?

伊藤健志

1984年に広告の世界に入りCMプランナー、CDとして、広告制作に携わってきました。昨年、還暦を迎えましたが、今も現役(?)です。たった40年ほどの間に、広告のマーナもノウハウもスピリットも、ものすごい速度で変化してきました。20世紀の華々しき広告黄金時代はあつという間に過ぎ去り、今や広告の存在さえも危うくなったような。

かつては、広告で夢や未来を描こうと意気込んでいた私たちですが、考えてみればそれも、時代が求めていたということ。未踏の地が多い、懐の深い時代が、われわれ広告制作者にさまざまな未来を描かせ、競い合わせたということかもしれません。きつと今の人たちは、広告に新しい暮らしか生き方を教えてもらおうだなんて、露ほども期待していない。そんな時代にCMは、何を信じ、何を語り、何を描くべきか。老兵に与えられた最後の課題と思いい、この懇談会に参加させてもらいます。どうぞよろしくお願いします。

新入正会員自己紹介

良いテレビCMとは?

片桐理

初めまして。本年から、お仲間に入れていただく片桐です。メーカーの広告制作部門で30数年テレビCMを作ってきました。今も年に20数本制作しています。私にとって「良いテレビCMとは」、「お仕事の場合は「目的合致性」と答えております。

では仕事を離れ、いち個人としたら何が、良いテレビCMなのか? 「なんとなく気になるCM」? あまりよくわかりません。お仕事として効果効率を考えている毎日、もちろん役員の顔色もよく見ますが、何が本当に自分にとって良いCMかはわかり難くなりました。世の中にとって良い広告とは? もっとわかり難いです。今回メンバーに入れていただいたことで、以前より他業界の広告を意識して見るようになりました。個人として、広告主として、制作者として、多様な視点からテレビCMのお話が出ることを楽しみにしています。

ラジオ局の外から見るラジオ

下田まり子

平成元年にラジオ局に入社し、令和元年に退職するまでCMクリエイティブ、営業、制作などさまざまな部署を経験しました。そのなかでも大半を占めるのが社内調整セクション。来る日も来る日も営業・編成事情の調整に明け暮れると同時に、低迷するラジオの力をどう表現すれば伝わるのか、答えを探し続けているような局員人生でした。

つまり常にラジオ局の内部からラジオを見続けていた訳ですが、2020年に退職し、今では年老いた両親の買い物代行し、食事を用意し、大学生の息子が授業をサボらないように布団を引っぱがして起こすただの人です。でも、そういう立場になつて接するラジオは私にとって新鮮なものでした。局員時代にはわからなかつたラジオの魅力が掴めかけているような感触がほんの少しですがしてきています。

今や完全に局の外にいる私が批評をして良いのやらわかりませんが、局内事情通の生活者」という目線でお役に立てればと思います。

新入正会員自己紹介

あらゆるものに教訓はある

生野徹

某企業で約20年間広告の仕事に携わってきたが、その間、社内で褒められた記憶がない。多くの人と喧嘩し人間関係はこじれた。人望のなさや社内ニーズよりクリエイターを目指す琴線に触れるCM制作を優先したせいだろう。……と言うとなんかカッコいいし、そんな体験をセミナー等で偉そうに語っていた自分が恥ずかしい。

現在独立して広告制作も一部やる身となった。最近、ある地方企業のCMを制作した。予算はこれまで自分が関わってきた制作費の約20分の1。ブランドメッセージと締めコピーを自分で書いた。修正依頼がクライアントから来た。拒否したがすぐに思い直して希望通り修正した。完成したCMは、自分がこれまで避けてきた発信サイドの思いを一方的に語るCMである。「これもあり」と自分に言い聞かせた。

「あらゆるものに教訓はある」。ある小説家の言葉だ。さまざまなCMの存在意義を勝手に想像してみることは楽しい作業かもしれない。

新入正会員自己紹介

リカレントとしてのCMハンター

平岩モトイ

10年ほど前に広告代理店を卒業して映画業界へ転職した私にとって、今回ご縁あつて放送批評懇談会への参加をお許しいただいたことは、今流行りの「リカレント」、学び直しの機会だと思っております。

あの頃、転職の理由を問われて、「CMは半年したら忘れられてしまうから」と繰り返したものでしたが、映画も「ヒットしなければすぐに忘れられてしまう」ことを痛感するようになるのに、さほどの時間はかかりませんでした。

思い起こせば広告代理店時代は、他社が作ったCMを血眼でチェックしたのですが、いつしかCMが「トイレタイム」になつてしまったことは、元広告人としては恥ずべきことなのかもしれません。今回、久しぶりにリモコン片手に番組から番組へ、それもCM目当てにザッピングをしている自分が可笑しく懐かしく感じられますが、やるからには食欲旺盛なCMハンターとして、現代社会を学び直そうと思っております。よろしくお願いします。